講義名	グローバル競争論				授業形態	
担当教員	李　東浩	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 ４時限			
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング

主題と概要

★本授業は双方向・多方向的な授業である。

★本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」考える学習型授業教育法を実施する。

★本授業の実施方法の詳細について以下を参照してください。

李東浩（2017）「学生の心を掴む生きた教育 ―教学双方の意識転換によるアクティブラーニング― 」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第２号　pp.75-104（30頁）。

★ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細について以下を参照してください。
李東浩（2018）「学部ゼミ運営に関する一概案―「楽しく頑張る」から「ひとづくり」―」」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第３号　pp. 1-19（19頁）。

★単位だけ欲しがる学生・自信のない学生は履修を勧めしない（簡単に単位が取れない）。
★真面目な学生・本気に勉強の意欲がある学生は強く勧める。
★毎回、面白いビデオがある。
★毎回、楽しいレスポン課題提出がある。
★毎回、討論時間と発言時間がある。
★先生だけからの学びではなく、学生同士が互いに勉強できる革新的な学びの仕組み。

到達目標

１．履修生は、グローバル競争論を学修するものにとって当然知っておくべき知識を習得できるようになる。グローバル競争論の基本理論を紹介するとともにケーススタディ（事例研究）をも採り上げるので、理論と実際とをバランスよく理解できるようになる。

２．履修生は、本講義を学修することによって、日常に企業に触れたり、企業に関する新聞記事を読んだり、ニュースを聞いて、グローバル競争的な側面から評価し、レポートにまとめることができるようになる。

３．本授業で得られたグローバル競争論の理論とケースの知識・能力を身につけ、初歩的なグローバル競争に関する経営計画を作成できるようになる。

具体的に、
（１）知識・能力・資格を身につける。
本授業を通じて、グローバル化になりつつある中での、歴史的に世界のリーダー格になった・なりつつある国々及び地域的な巨大な影響力を有する国々の過去・現在・将来を地政学・経営学・経済学・社会学といった多面的な視角から説明する。受講者の正しい世界観、歴史観、国際関係観を形成できるようになる。

（２）思考力・判断力・表現力を向上する。
論理的に基本的な概念・理論と方法を学ぶだけではなく、毎回の授業に実際の企業の事例をも採り上げ、ビデオをも活用しながら、理論と実際とをバランスよく理解できる。ただ単に授業内容とビデオを聞く・見るだけではなく、考えて、判断、討論、発言、考え直し、まとめ、といった一連の仕組みで毎回、知識と能力が身につけることを実感できるようになる。

提出課題

１．各自事前に、ポータルシステム、レスポン、Teamsアプリなどの使用方法等を熟知・理解し、毎回課題を提出できるように準備してください。

２．全員、授業開始前までに、授業専用Teamsグループに参加してください。
参加しないと、すべてのプリント資料やビデオ説明内容、連絡通知等の情報を入手できない。
当然、単位を修得できない。

３．毎回レスポン課題の提出があるので、作成要領等の指示に従い、〆切期間中に提出してください。
ただし、単位判定対象となるのは、1回目・10回目・期末試験（同じくレスポン課題提出）の3回分のみである。

３．それ以外の回では、レスポン課題は自由提出になる。
ただし、学習勉強と自己成長の効果を実感するため、毎回の提出を勧める。
期末試験（同じくレスポン課題提出）の準備練習としても、多大な価値あるので、毎回の提出を勧める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

１．毎回、前回課題へのフィードバックと振り返りを解説する。
優れた提出内容等をマーカーや色付けで強調して褒影や注意喚起をする。
モチベーションアップにつながるだろう。

２．毎回、全体的な状況や一部代表的な課題を見本として提示する。
双方向・多方向的考える学習型授業の醍醐味を理解して、互いに勉強しましょう。

３．毎回、自分の学習成果のチェックだけではなく、他人の意見や考え、先生のコメント・説明をも確認できる、PDCAのスパイラルアップ過程を通じて、毎回自分のやる気にもつながり、自己成長を実感できる。

評価の基準

１．平日提出課題の2回分と期末試験（同じくレスポン課題提出）の1回分で総合的に判定する。
①1回目＋②10回目＋③期末試験（同じくレスポン課題提出）。

２．①1回目の平日提出課題が３０点、
②10回目の平日提出課題が２５点、
③期末試験（同じくレスポン課題提出）が４５点、
合計１００点。
期末試験（同じくレスポン課題提出）不提出の場合、直接不合格になる。

３．③の期末試験（同じくレスポン課題提出）の中身である、内容・要領・期間・時間等について、大学の期末試験期間中（第１６週）にポータルシステムとTeamsの両方に提示する。
平日、真面目に授業を履修しないと、簡単に期末試験（同じくレスポン課題提出）を完成できない。
ネット等の不具合対策を意識しろう、余裕をもって、〆切まで期間中に提出してください。

４．平日提出課題と期末試験（同じくレスポン課題提出）の提出する際に、作成要領と〆切を厳守してください。
特に〆切の間近に、ネットなど不具合の可能性もあるので、時間の余裕をもって提出してください。
〆切後の提出は認めない。
レスポン以外での提出は認めない。
病欠などによる未提出は、教務が発行する正式な欠席理由書に基づき配慮と対応する。

履修にあたっての注意・助言他

先輩からの以下の意見を是非参考してください。
１．「五感に触れる画期的な授業」：
→→充実な内容、効率的な進め方で知識と能力を身につけられる！

２．「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見する場を与えて、それを共有し、すぐに実行する。優良企業だと思います。モチベーションがとても高く維持できています」。
→→一方的な授業ではなく、交流の場でもある！

３．「いま4回生だがもっと早くこの授業に出会いたかった」：
→→知識そのものだけではなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べる！

４．「単位を取ることはとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」
→→単位と知識能力を両立して楽しく取ろう！

教科書

.使用しない。.				

参考図書

.決定版 大国の興亡―1500年から2000年までの経済の変遷と軍事闘争（上下巻）.	ポール・ケネディ	草思社; 決定版 (1993/2/1)　452ページ	971	4794204914
.米中戦争前夜――新旧大国を衝突させる歴史の法則と回避のシナリオ.	グレアム・アリソン（著），船橋 洋一・序文（その他），藤原 朝子（翻訳）	ダイヤモンド社 (2017/11/2)　424	2200	4478103313
.文明の衝突.	サミュエル・ハンチントン（著），鈴木 主税（翻訳）	集英社 (1998/6/26) 560ページ	3080	4087732924

その他

１．レジメ（＝プリント）等資料は各自事前に授業専用Teamsグループからダウンロードと印刷して教室まで持って来てください。

２．授業はPPTとレジメ・資料、映像、発言・討論で進む。レジメには穴埋めが相当設けられ、授業中のPPTと確認しながら記入してもらう。

★厳重注意：本授業はリュウカポータルには、最初の授業連絡通知と最後の期末試験通知の2回だけを掲示する。その以外の授業資料や授業連絡・レスポン課題提出等の連絡を一切掲示しない。
代わりにすべての資料・説明・レスポン課題等は授業専用Teamsグループにて連絡・公開をする。
不明の場合、授業専用Teamsグループのチャット機能や、大学のメール等を利用してください。

３．参考文献：
①Paul Kennedy ポール・ケネディ（1989＝1993）『大国の興亡』　草思社。

授業計画

授業内容計画概要。注：（　　）内はビデオ内容。
1　イントロダクション：進め方・出席・単位等（5G米中攻防の最前線）
2　グローバル競争概要（ノーベル賞発祥の地！北欧スウェーデン：イケア）
3　歴史の示唆：トゥキディデスの罠（米中貿易戦争の真実、その時日本は？）
4　国の競争優位（「一帯一路VSインド太平洋」　日系企業のインドへの進出）
5　産業の競争優位（アフリカのタンザニア：日系自車と清潔水）
6　企業の競争優位（シンガポール：国が丸ごと実験場）
7　イノベーション競争（人工知能AIの現実：米日での運用拡大）
8　ベトナムとアセアン（ベトナムへの日系企業進出　コクヨ文房具）
9　韓国、台湾（日韓関係も政冷経熱？）
10 ポルトガルとスペイン（ユニクロのスペインへの進出）
11 オランダとイギリス（アサヒビールのイギリスロンドンへの進出）
12 フランスとドイツ（欧州の親日国：フィンランド）
13 日本とロシア（ロシアへの進出と現地の商習慣）
14 アメリカと中国（世界のAI＆ロボット：海底捞の進化）
15 まとめ（アメリカVS中国：未来の覇権争い）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

１．文科省の大学設置基準第21条2より、2単位の授業は90時間（以上）の学修を必要としている。
15回で割ると毎回6時間の学修時間は必要である。

２．毎回、90分の授業時間を2時間とみなされている。
毎回、授業外の予習と復習の時間は4時間が必要である。

３．毎回、教室の講義とともに、授業専用Teamsグループのプリント資料・ビデオ資料をも生かして、予習・学習・復習をしてください。

４．予習の一例として、初回目のでは、「米中５Gについて考えて、授業中1分間発言できる」のような質問に答えられるように、予習準備をしてください。
復習の一例として、「今回・前回の講義の内容やキーワードについてしっかり理解して、場合によって自己調べ・勉強もしましょう。どうしても分からなく知りたい場合、メールなどで担当先生へ連絡をしてください」。

５．先生とメール等とのやり取りする際、正しいマナーを十分意識し、李先生の宛先呼称・敬語表現・最後まで返信など、礼儀正しく言動を取ってください。

６．毎回、「知識は力になる」こと、を実感できる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

１．企業や組織の国際運営・グローバル競争の仕組みを自ら主体的な立場から的確に理解できる。共通DP及び業界動向・問題探索・課題提案能力のDPに貢献できる。

２．身につけた知識・能力・資格等を生かして、組織メンバーと外部関係者とも協力的に働きかける。自ら考えと理解のDPに貢献できる。

３．グローバル競争の戦略立案と実行しながら、現地のニーズにも適応しつつ、柔軟で俊敏に大局的な視野と能力を持つことができる。グローバル分析や改善・解決のDPに貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義を聞くだけではなく、考えてグループワークで喋べたり、発言をする。
映像を見るだけではなく、メモしたり考えたり、レスポンに回答を出し、発言をする。

１．質問やクイズなど、積極的に考えて、発言をしてみてください。

２．他人の発言を聞いて、自分も発言できるように授業に臨んでください。

３．先進的なレスポンなどのシステムを駆使し、リアルタイムで他人の課題結果をグラフなどで確認でき、授業の効率と学習意欲の向上に繋がる。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な心構えがあれば是非一度体験してみませんか。
①遠り甲斐のある授業（そうか！これこそは大学らしい授業だ！）。
②静かで受講できる環境（私語はほとんどない！）。
③退屈ではない（退屈の時間さえもない！）。
④みんな一緒に互いに勉強する（自力・他力、皆の力を感じろう！）。